

News!



「JA全農とっとり野菜広域センター」竣工

JA鳥取中央、JA鳥取西部と共同運営

鳥取県本部

稼働した野菜広域センター



竣工式でのテープカット



鳥取県本部は、JA鳥取中央、JA鳥取西部と共同で運営する「野菜広域センター」を開設し、4月14日に竣工式を行いました。

竣工式には、関係者30人が出席しました。施主として尾崎博章県本部長が「皆さまとともにこの施設を盛り立て、生産者の手取り安定につながるよう努力してまいります」とあいさつしました。

野菜広域センターは、ブロッコリー生産者の労力軽減による生産基盤強化、発

泡スチロール氷詰めによる品質保持を目的に、鳥取県本部とJA鳥取中央、JA鳥取西部が共同事業方式で運営を行う県内初の施設です。県本部が全量買い取ることににより農家所得の安定化も期待され、初年度は26万5000ケース（1ケース6キロ）の出荷を指します。

News!



業務用米契約栽培 取り組み拡大へ

「令和2年度JA全農多収コンテスト」開催

米穀生産集荷対策部

全農会長賞を受賞した菊地さん（右から2人目）、同理事長賞優秀賞を受賞した金田さん（同3人目）

JA全農契約栽培米多収コンテスト 表彰式



全農は、業務用実需者向け契約栽培の多収品種の栽培技術向上と優良な栽培事例の水平展開を目的とし、「JA全農多収コンテスト」を開催しています。第3回となった令和2年度では、12県から442人の生産者が参加しました。

全農会長賞には、過去最高となる902kg/反（品種…とよめき）を達成した茨城県のJA水戸管内の菊地茂光さん、全農理事

長賞最優秀賞には兵庫県JA兵庫六甲管内の檜田幸吉さん（品種…とよめき）が選ばれました。菊地さんは「これほど収量がとれたことはなかったが、基肥と穂肥をしっかりとした結果だ」と話していました。高収量を実現した参加者は、土づくりや追肥をしっかりと行っていきま

契約栽培の取り組みは、3年産では10万トンを目標に進めています。

コンテストの詳細・受賞者は
こちらから





パックごはん事業に参入

(株)JA加美よつばラドファに出資

米穀部

米穀部は4月1日、宮城県のJA加美よつばが保有する(株)JA加美よつばラドファの全株式のうち約7割を取得し、パックごはん事業に参入しました。

(株)JA加美よつばラドファはJA加美よつばが1993年(平成5年)に設立した会社で、「ガス直火炊き」「しゃり切り」といった米のおいしさを最大限に引き出す独自製法により、27年間、パックごはんの製造



(株)JA加美よつばラドファが製造するパックごはん

販売に取り組んできました。

一方、全農はパックごはんの市場成長性を鑑み、自県の銘柄米をパックごはんの商品化したいという産地ニーズや、中食外食事業者の需要増への対応、米輸出拡大などの観点から、パックごはん事業への参入について検討を進めてきました。パックごはん事業の成長戦略について協議を重ねた結果、互いの理念の実現に向けて関係をより一層強化する必要がありとの共通認識となり、出資に至りました。

今後、(株)JA加美よつばラドファは、2022年度(令和4年度)に新工場を取得して生産能力を拡大し、「ガス直火炊き製法」にこだわったごはんのおいしさ、商品力の高さを武器に、国産米パックごはんの販売拡大を図ります。

12 つくる責任 つかう責任



福岡の高校生に「八女茶」飲んで

若年層への需要拡大に期待

福岡県本部

福岡県本部は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の低迷と消費の減退を受け、県内の八女茶販売業者と茶生産者の需要喚起を図るため、令和2年度茶販売促進緊急対策事業を活用し、「全国高等学校家庭クラブ連盟」に加盟している県内の86高校へ八女茶を配布しました。

「福岡の八女茶」を題材とした体験活動を提案し、若年層に向けて「ペットボトル緑茶」とは違う「急須で

入れた緑茶(リーフ茶)の魅力を再発見してもらい、併せて、福岡の八女茶の販売促進を図ることを目的としました。反響は大きく、「初めて急須で淹れました」「八女茶のことが理解できました」「おいしいお茶、どこで買ったらいいか」など、問い合わせや手紙を多数いただきました。今後の若年層への茶需要の拡大に期待します。



高校に配布した八女茶と生徒からのお礼の色紙

「福岡の八女茶」
については
こちら



「全農酪農セミナー 2020」をWeb開催

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



移行期の飼養管理と子牛の衛生対策詳しく

畜産生産部



講演したヘザー博士

全農と共同研究を実施しているアメリカのウィリアム・マイナー農業研究所、ヘザー・ダン博士より「移行期管理を成功させるポイントについて」、家畜衛生研究所の齋藤仁職員より「全農クリニックを活用した呼吸器病対策について」をテーマに配信しました。

ヘザー氏にはマイナー研究所の試験データや最新の知見を交えながら、移行期の栄養を中心とした給与飼料、ストレスを軽減させる群編成・分娩房のポイントなど、現場で実践できる内容を多く紹介していただきました。

畜産生産部は「全農酪農セミナー2020」を3月3〜6日にWebで配信しました。今年はコロナ禍により、初めてのWeb開催となりました。全国から生産者やJA関係者ら、約400人が視聴しました。

JAふくしま未来で「訪問活動スキルアップ研修会」

県本部が研修会提案し、エール

東北営農資材事業所

研修



管理職45人が参加した3月5日の研修と一般職38人が参加した10日の研修

福島県本部とJAふくしま未来は、営農経済担当職員対象の「組合員への訪問活動スキルアップ研修会」を3月5、10日に開きました。

管理者は職員「育てる力」、職員は組合員の皆さんとの対話力、提案力の向上を目的に、(株)コンパスの鈴木進介氏を講師に招き、研修しました。JAの佐藤博元常務はあいさつで「組合員の皆さんはJAに期待している。今までの取り組みだけでは不十分だ。この研修会を通じて地域から必要とされる『JAの訪問活動』につなげたい」と話しました。この研修会を提案した同県本部は「全農はJAの出向く活動を支援します。組合員宅への同行訪問もさせてもらいたい」とエールを送りました。

全農グリーンリソース・タイ株式会社

農薬原体の輸入業務柱に

協同組合貿易の60年近い歴史刻む

全農グリーンリソース・タイ株式会社の事業内容の前に、その歴史について紹介したいと思います。改めて振り返れば、それはまさに協同組合貿易の歴史といってよいかと思います。

当社は1964（昭和39）年7月、組合貿易バンク駐在員事務所として開設されました。もともとはタイ産トウモロコシを安定的に輸入するため、当時の全購連、組合貿易がタイ協同組合関係者と協議を重ねるなかで誕生したものでした。その後、トウモロコシの協同組合間取引の拡大にともない、同駐在員事務所は66（昭和41）年8月、支店に昇格、69（昭和44）年8月にはタイ側の全農連合会（現在のタイ国農業協同組合連合会、以下ACF

T）も設立されました。翌、70（昭和45）年には日本側（組合貿易とクミアイ化学の均等出資）とタイ側ACFTの出資により、現在当社の最大の取引先であるT・J・Cケミカル社が設立されます。

当社の取り扱い品目はT・J・Cケミカル社向け農薬原体の輸入が柱となっており、その他 Spreyer の輸入、T・J・Cケミカル社が製造を受託している薬剤の原料輸入及び製品の輸出、また取引仲介業務として、飼料副原料となる全農向け糖蜜、タピオカペレット、また全農グリーンリソース本社向けでは米麦用フレコンおよび原反、冷凍濃縮パイナップル果汁、パイナップルピューレーなどを扱っています。

全農グリーンリソース・タイがあるオフィスビル



スタッフに聞く

イチオシ現地食

タイ料理というと、トムヤムクンやグリーンカレーを連想されると思いますが、海の幸、山の幸もおすすめです。山の幸は北部のチェンマイやチェンライに行くと、メニューに「オードブル」という名前の料理が目につきますが、これはタイ語では「ナムブリックヌン」と言います。ゆで野菜やソーセージなどをナスで作ったソースにつけて食べる、まさに大皿のおつまみのような料理です。ビールに合うことは言うまでもありません。

現地スタッフの社内ランチ



ビールに合う「ナムブリックヌン」

スマート農業に弾み



JAかみつがではZ-GIS®で共同防除の対象圃場を管理している

営農管理システム「Z-GIS®」

農家の高齢化や労働力不足が深刻になる中、農作業の効率化や省力化は喫緊の課題となり、課題解決の方策としてスマート農業に期待が集まっています。全農は、独自の営農管理システム「Z-GIS®」の普及を進めています。

【耕種総合対策部】

【耕種資材部】

パソコン上で営農情報管理

担い手の大規模化に伴い、白地図に圃場ほしうを手書きする従来の方法では、作付けや作業の情報管理が難しくなっています。「Z-GIS®」を利用すると、インターネット上の電子地図とMicrosoft Excelのワークシートをひも付けし、パソコン上で営農情報を管理することができ

ます。作物別に地図を色分けする、今週防除する圃場だけを抽出する、色分け・抽出した地図を印刷するなどの作業が効率的に行えます。

こうした機能はJAにとっても便利です。栃木県のJAかみつが日光営農経済センターは、無人へ

りで防除する約6000枚の水稲圃場をZ-GISに入力し、共同防除の申し込みや集計の労力を大幅に軽減することができ

ました。JAに出荷する蔬菜組合の圃場をZ-GISに登録し生産状況を管理する、水稲新品種の栽培圃場を入力し農業改良普及センターと共有するなど、各地で活用が進んでいます。

Z-GIS®の
詳細はこちら



17

パートナーシップで
目標を達成しよう



9

産業と技術革新の
基盤をつくらう



4月1日に開き約500人が参加した「ザルビオ®フィールドマネージャー」のオンラインセミナー



ザルビオ®フィールドマネージャーの紹介ちらし

栽培管理支援システム 「ザルビオ®フィールドマネージャー」

AIが病害、雑草発生、生育を予測

全農はZ-GISに続いて「xarvio® FIELD MANAGER(ザルビオ®フィールドマネージャー、以下ザルビオ)」の日本国内へのサービス提供を4月1日から始めました。「ザルビオ」はAIを利用して病害や雑草の発生、生育ステージを予測するWebシステムです。ザルビオの地図に圃場の位置、播種日や移植日、品種などを登録すると、例えば幼穂分化期、出穂期に達する日を事前に利

用者に知らせます。水稲では、天候の推移からAIが判断し、「いもち病の発生リスクが高まっている」といった病害アラートを発出します。大豆向けには雑草発生の予測機能を備えています。さらに人工衛星撮影画像を解析して「見える化」した生育マップを、パソコンやスマートフォンから見ることもできます。ザルビオには、相手の承認を得たうえで、他の生産者の圃場や作付け情報を閲覧できる機能があります。JAがこの機能を使うことで、営農指導の効率化が期待できます。組合員にザルビオ上でアドバイスすることも可能です。

ポットします。ドイツのBASFデジタルファーマーミング社が開発したシステムで、海外では2017年にサービスが始まり、現在は世界16カ国500万畝以上の農地で利用されています。

全農とBASFジャパンは4月1日にザルビオを紹介するオンラインセミナーを開き、ザルビオの機能、全農のスマート農業戦略を説明するとともに、ザルビオを使用した4人の農業者インタビューを交えたパネルディスカッションを行いました。生産者、JA、企業などから500人近くが参加し、参加者の6割がアンケートに「たいへん満足」「満足」と回答しました。

「ザルビオ®フィールドマネージャー」で作成した施肥マップをもとに可変散布が可能なブロードキャスト



ザルビオは高精度な予測を実現するために国内外の生育に関するデータ、学術論文の文献データを基に機械学習によって強化したAIを駆使して、生産者の栽培管理上の意思決定をサポートします。ドイツのBASFデジタルファーマーミング社が開発したシステムで、海外では2017年にサービスが始まり、現在は世界16カ国500万畝以上の農地で利用されています。

ザルビオ®
フィールドマネージャーの
詳細はこちら





仙台・都内の直営飲食店舗で、「仙台牛」と「だて正夢」が 味わえる「宮城県産食材フェア」開催

全農は宮城県仙台市と東京都内の直営飲食店舗4店舗で、5月16日まで「宮城県産食材フェア」を開きます。【フードマーケット事業部】

宮城県が誇る全国屈指のトップブランド「仙台牛」をはじめ、とびきりの甘みともっちり食感のプレミアムブランド米「だて正夢」、糖度と酸度のバランスが良くすっきりとした甘さが特長のイチゴ「もういっこ」など、“宮城県産食材”を使用した特別メニューを各店舗で提供します。

コロナ禍の影響で、外食での消費割合が高かった「和牛」や「業務用米」の需要が激減しています。フェアでは、「仙台牛」や「だて正夢」のおいしさを存分に楽しめる料理を楽しんでもらうことで、和牛やお米の消費拡大を目指します。

【メニュー提供概要】

- 期間** 令和3年4月22日(木)~5月16日(日)
- 実施店舗** みのりカフェエスパル仙台店、 Grillみのるエスパル仙台店、
みのりカフェ三越銀座店、 みのる食堂三越銀座店

※銀座店の仙台牛メニューは土日祝数量限定
※新型コロナウイルス感染拡大の影響によりフェア開催内容が変更となる場合があります。

Webサイトはこちら



仙台牛のローストビーフサンド(みのりカフェ 三越銀座店)



仙台牛のローストビーフ丼(みのりカフェ エスパル仙台店)

今が旬! 「えちごのいちごのプリンセス」越後姫」動画公開中

新潟県本部が事務局を務める「にいがた園芸農産物宣伝会」は、県産ブランドいちご「越後姫」のプロモーション動画を動画投稿サイトYoutubeで公開しています。【新潟県本部】

昨今のコロナ禍で店頭やイベントでの試食販売が難しい中、「越後姫」の魅力を県内外の人に知ってもらうため、「越後姫」を主役にした動画を制作しました。赤々と熟した越後姫が生産者の手で収穫されて店頭に並び、食卓で子どもの口に運ばれるまでをストーリー仕立てにしました。また、軽快なラップ調の曲に乗せて、越後姫のおいしさや選ぶポイントなどを紹介しています。動画は県内量販店のイチゴ売り場でもシーズン終盤(5月下旬)まで流す予定です。

果肉が軟らかく、甘くてジューシーなプリンセス(越後姫)は、JAタウンからも購入が可能です。ぜひこの機会にお召し上がりください。



JA全農にいがた You Tubeチャンネル



JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

JA熊本うきっ子ショップ

鮮やかなオレンジ色の果肉が目を引く、熊本県宇城地域オリジナルメロン「オレンジハート」。5月上旬から5月下旬の、わずかな期間で収穫されるJA熊本うきのプライベートブランドメロンです。「オレンジ色に真心(ハート)を込めて」という思いから名付けられました。

糖度は16度以上で、とろける食感と果汁が甘さを引き立てます。肉質はきめ細かで、口当たりの良さも絶品です。

母の日シール&メッセージカード&リボンをお付けしますので、お母さんへの贈り物におすすめです。

※5月8日~9日の間での発送となります。



【母の日ギフト】オレンジハートメロン
2玉……4480円(税込)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

